

## 農業工学レポート

農業工学でできるセクター間との連携として、講義では農福連携のお話をうかがった。農福連携とは、農業分野と福祉分野の連携である。具体的には、老人ホームを田舎に建設し、老人ホームに入居している高齢者に農業をさせる、というものだ。これは、農業人口を増やすという利点の他、老人ホームに入居している高齢者の健康促進や精神状態の向上という利点もあり、セクター間の連携の成功例ともいえる。

私は、これに関連して、障害者の施設を田舎に建て、障害者の方々に農業をさせる、という形の農福連携も可能なのではないかと考えた。これも農業、福祉両面からのメリットが予想できる。農業人口が増え、農業生産が増える上に、障害者の健康促進や、生活の質向上、収入増加にも繋がる。調べたところ、現在実際に障害者に農業をさせるという形での農福連携が進められている。しかし一方で、障害者の担う農業は下請け程度であるという実態もある。そこで、農業工学の分野からの連携として、障害者でも農業そのものに携わることができるような農業を構想することができるのではないかと考えた。具体的には、次のようなことが考えられる。一つ目は、障害者が作業しやすい農地を設計することである。知的障害者などは、作業が複雑でわかりにくいとうまく対応できないこともあるだろう。そこで、農作業を単純化し、誰でも簡単にできるような農地を設計することで、障害者も農業そのものに携わることができるのではないかと考えた。二つ目は、障害者も使える農業機械を開発することである。農業は、肉体労働的な側面が多い。身体障害者などは特に、農業に必要な工程の中で難しいものも多いであろう。そこで、身体障害者でも農作業をできるような機械を開発することで、農業に携わりやすくなるであろう。

社会がより多様で複雑になっている現在、分野をまたがる問題も多く発生している。今後セクター間の連携を強化していくことで、そういった多様な問題に対処していく必要があると強く感じた。

### 参考文献

<http://www.ecozzeria.jp/series/column/column141002.html>